

## SW-CMM®の終結に関する FAQ(Frequently Asked Questions)

この文章は、カーネギーメロン大学ソフトウェアエンジニアリング研究所 (SEI) が公開している「[Frequently Asked Questions \(FAQ\) About Sunsetting the SW-CMM®](#)」および「[The SEI Continues Its Commitment to CMMI®](#)」を翻訳したものです。

以下に引用する英文の通り、本翻訳については SEI から正式な許諾を受けていますが、翻訳の正確さ・解釈については、翻訳者（許諾を受けた（有）乗松プロセス工房）の責任であり、SEI は翻訳には参加していません。すなわち、**本翻訳は、「公式翻訳」ではありません。**従って、**公式の見解については、英文の原典を確認するか、SEI に直接お問い合わせ下さい。**本件の翻訳（誤字・脱字・翻訳の誤り等）に関しては、[翻訳者](#)にご連絡下さい。但し、本翻訳の性格上、内容に関するご質問にはお答えできませんし、SEI への取り次ぎも致しませんので、予めご了承下さい。

**本翻訳物の二次配布については、以下の条件で許可を得ています。**

- ・内容の変更や削除を行わず、この PDF 全体の形で配布すること
- ・商用目的で利用しないこと（一般公開文書（WWW 等を含む）への掲載を含め、その他の利用に関しては、[翻訳者](#)にご連絡下さい）

**翻訳者：** 乗松 聡 ([norimatsu@NP-Lab.com](mailto:norimatsu@NP-Lab.com))

**リリース日：** 2002/11/27

**SEI からの許諾：**

Translations of Frequently Asked Questions (FAQ) About Sunsetting the SW-CMM<sup>®</sup>, (c) 2002 and The SEI Continues Its Commitment to CMMI<sup>®</sup>, (c) 2002 by Carnegie Mellon University, with special permission from the Software Engineering Institute. Accuracy and interpretation of this translation are the responsibility of Norimatsu Process Engineering Laboratory, Inc.. The SEI has not participated in this translation.

Capability Maturity Model is registered in the U.S. Patent and Trademark Office by Carnegie Mellon University. CMMI is registered in the U.S. Patent and Trademark Office by Carnegie Mellon University.

NO WARRANTY. THIS CARNEGIE MELLON UNIVERSITY AND SOFTWARE ENGINEERING INSTITUTE MATERIAL IS FURNISHED ON AN AS IS BASIS. CARNEGIE MELLON UNIVERSITY MAKES NO WARRANTIES OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED AS TO ANY MATTER INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTY OF FITNESS FOR PURPOSE OR MERCHANTABILITY, EXCLUSIVITY OR RESULTS OBTAINED FROM USE OF THE MATERIAL. CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DOES NOT MAKE ANY WARRANTY OF ANY KIND WITH RESPECT TO FREEDOM FROM PATENT, TRADEMARK, OR COPYRIGHT INFRINGEMENT.

Disputes. This Agreement shall be governed by the laws of the Commonwealth of Pennsylvania. Any dispute or claim arising out of or relating to this Agreement will be settled by arbitration in Pittsburgh, Pennsylvania in accordance with the rules of the American Arbitration Association and judgment upon award rendered by the arbitrator(s) may be entered in any court having jurisdiction.

Translations of CMU/SEI copyrighted material are not official SEI-authorized translations.

Norimatsu Process Engineering Laboratory, Inc. agrees to assign and transfer to CMU/SEI all copyrights in the translation of any CMU/SEI document.

This permission is granted on a non-exclusive basis for non-commercial purposes.

## SW-CMM<sup>®</sup>の終結に関する FAQ(Frequently Asked Questions)

2002 年 11 月

### 内容:

[ISRI における活動は、SEI における CMMI<sup>®</sup>活動と、どう関連があるのですか？](#)

[派生著作物 \( derivative work \) とは何ですか？](#)

[SW-CMM の新しいバージョンはリリースされますか？](#)

[「ソフトウェアのみの組織」 \( Software-only organization \) や IT \( 情報技術 \) 組織に  
対しては、CMMI はどのように支援しますか？](#)

[カーネギーメロン、SEI、ISRI はどう関係していますか？](#)

[別の組織が SW-CMM の新しいバージョンをリリースすることは可能ですか？](#)

[管理人としての SEI の責任は何ですか？](#)

[SW-CMM から CMMI に移行することの最大の利点は何ですか？](#)

[SEI は、どのような成果物やサービスをサポートし、どのような成果物やサービスをサ  
ポートしないのですか？](#)

[これ以上の情報について](#)

---

カーネギーメロン大学の ISRI ( Institute for Software Research International ) が、SW-CMM ( Capability Maturity Model for Software : ソフトウェア CMM ) モデルのバージョン 2 に関する活動を行うつもりがあるというプレスリリースを受け取りました。ISRI における活動は、SEI ( Software Engineering Institute ) での CMMI 活動と、どう関連があるのですか？

SEI は、カーネギーメロン大学で作られる CMM 関連の知的財産の全てに関する管理人であるため、CMM に基づく派生成果物が大学で作られた場合は、それらは全て SEI により調整されるべきものです。SEI の CMMI ( Capability Maturity Model Integration : CMM 統合 ) に対するコミットメントは現在も確固たるものであり、従って、ソフトウェア CMM のバージョン 2.0 に対して、もしくは、SW-CMM からの派生物で CMMI 成果物一式との互換性が無い物に対しては、作業を行う意志はありません。SEI が開発した CMM に関して、カーネギーメロンで行われる全ての活動は、CMMI と互換性のあるものであろうし、

またそれに応じて命名されるでしょう。

SW-CMM の終結が、SEI のウェブサイト

( <http://www.sei.cmu.edu/cmml/adooption/sunset.html> ) で記述されているように、予定通り進むであろうことについて、SEI はそれが真実であることを確認できます。

## 派生著作物 ( derivative work ) とは何ですか？

派生著作物とは、すでに存在する活動もしくは活動群に基づく著作物のことです。広義には、ほとんど全ての著作物は、すでに存在する著作物から何らかの程度派生している点で、派生著作物と言えます。従って、何らかの実用上の区別をすることが役に立ちます。

- 1976 年著作権法第 101 条は、派生著作物を「編集上の校正、注釈、推敲、もしくは、他の修正から成るもので、全体としては、原作者による原文に相当するもの」と定義しています。
- 著作物は、既存の著作物から相当量において複製された場合には、派生的である。借用された部分が、ある程度、既存の著作物から導出された概念の表現により構成される場合には、派生著作物である。

例えば、CMMI モデルは、SW-CMM、SECM ( Systems Engineering Capability Model : システムエンジニアリング能力モデル )、IPD-CMM ( Integrated Product Development CMM : 統合製品開発 CMM ) に基づく派生著作物です。同様に、SEI の CMM 群のいずれかに対するアップデートは、派生著作物となります。

## SW-CMM の新しいバージョンはリリースされますか？

いいえ。SEI における CMMI 関連の活動は、現在、CMMI 成果物一式が広い範囲で採用されることを支援することを重視し、方向づけられています。この CMMI 活動は、当初 SW-CMM の中に盛り込まれた原理に基づき、それを拡張するものです。SW-CMM の終結は、SEI のウェブサイト

( <http://www.sei.cmu.edu/cmml/adooption/sunset.html> ) で記述されているように、予定通り進むでしょう。

## 「ソフトウェアのみの組織」(Software-only organization) や IT (情報技術) 組織に対しては、CMMI はどのように支援しますか？

多くの「ソフトウェアのみの組織」や IT 組織、SEI からライセンスを受けてそれらの組織と協働しているプロセス改善コンサルタントは、CMMI を用いて一年以上ビジネスプロセスを改善してきました。SEI は、CMMI を現在採用し始めたばかりの他の多くの「ソフトウェアのみの組織」や IT 組織のために、これらの初期採用者から、解釈上の課題や教訓を収集する活動を開始した所です。最初のステップとして、SEI は、CMMI-SW (CMMI for Software : ソフトウェア CMMI) モデルを 2002 年 8 月にリリースしました。

さらに、「ソフトウェアのみの組織」と IT 組織向けに、CMMI の解釈の手引きを SEI が現在開発中です。この手引きは、ソフトウェアのコミュニティが CMMI 成果物を使用する際の特殊なニーズに対応するでしょう。SEI は、コミュニティでの各種イベントにおいて、この手引きを開発するのに役立つ情報を収集するための会合を開く予定です。この活動を支援するものとして、カーネギーメロン大学学長の Mark Kamlet は以下のように述べています。「私は、CMMI の採用や、ソフトウェア開発者による CMMI の利用のための解釈の手引きを作成することが、最優先の課題であると考えています」。

これらの手引きの開発において、SEI を支援することを希望される場合には、[cmmi-software@sei.cmu.edu](mailto:cmmi-software@sei.cmu.edu) に連絡して下さい。

## カーネギーメロン、SEI、ISRI はどう関係していますか？

SEI は、カーネギーメロン大学の中では半ば自立的な、カレッジ相当の構成単位です。また、FFRDC (federally funded research and development center : 連邦予算の研究開発センター) であり、OUSD [AT&L] (Office of the Under Secretary of Defense for Acquisition, Technology, and Logistics : 調達・技術・兵站のための国防次官局) を通じて米国 DoD (Department of Defense : 国防総省) による後援を受けて、カーネギーメロン大学により運営されています。ISRI は、カーネギーメロンの SCS (School of Computer Science : 計算機科学学部) の一部です。ISRI は、SEI とは別の組織ですが、カーネギーメロンの一部です。SEI は、カーネギーメロンの組織の一部であり、政府の後援を受けて

いると見ることができます。

## **別の組織が SW-CMM の新しいバージョンをリリースすることは可能ですか？**

いいえ。SW-CMM はカーネギーメロン大学の知的所有物です。いかなる人物もしくは組織も、カーネギーメロンの知的所有物に基づく著作物を作成する場合には、その知的所有物を利用する許諾を正式に受ける必要があります。SEI は、カーネギーメロン内で作成された CMM 関連の全ての知的著作物に関する管理人です。従って、SEI が開発した CMM に基づいて新しいバージョンをリリースしたいと別の組織が望む場合、そうするためには SEI の合意を得なくてはなりません。SEI は SW-CMM を 2003 年末までに終結させるつもりであり、カーネギーメロンはその決定を支持しているため、そのような活動を SEI が許可することはないでしょう。

## **SEI の管理人としての責任は何ですか？**

カーネギーメロン内で作成された CMM 関連の全ての知的所有物に関する管理人として、SEI は以下のことを行います：

- CMM に基づく著作物が、政府および民間において広く使われるように移行させることを支援する。
- コミュニティーのニーズに対して最も良く応えるように、CMM の概念を維持し、そして進化させる。
- DoD (Department of Defense : 国防総省)、その供給者、および利用するコミュニティのために、現在および将来の CMM に基づく成果物の品質を確実に保護する。
- 利用するコミュニティに対して、信頼でき、妥当で、首尾一貫した成果物とサービスを確保する

## **SW-CMM から CMMI に移行することの最大の利点は何ですか？**

以下のようなことを組織が行うことを可能にする点で、CMMI のベストプラクティスは、SW-CMM (さらには SECM および IPD-CMM) のベストプラクティスを改善しています：

- 管理およびエンジニアリングの活動を、事業目標に対してより明示的に結びつける

- 成果物やサービスが顧客の期待に確実に応えるように、成果物のライフサイクルとエンジニアリング活動の範囲を拡張し、可視性を拡張する
- 他の領域（例えば、測定、リスク管理、供給者管理）のベストプラクティスからの教訓を取り入れる
- より頑健な、高成熟度のプラクティスを実装する
- 組織の成果物およびサービスにとって重要な組織の機能部門をさらに取り上げる
- 関連する ISO 標準に対して、より完全に従う

**SEI のウェブサイトでは、「SEI は、SW-CMM モデルに対していかなるアップデートも作らない」と述べられています。SEI は、どのような成果物やサービスをサポートし、どのような成果物やサービスをサポートしないのですか？**

SEI は、「CMMI Product Suite (CMMI 成果物一式)」へのサポートを続けるつもりです。成果物一式には、CMMI モデル、SCAMPI の評定成果物一式、および CMMI のトレーニングプログラムが含まれます。SEI がサポートするその他の CMM は、P-CMM (People CMM) および SA-CMM (the Software Acquisition CMM: ソフトウェア調達 CMM) であり、これらは「CMMI Product Suite (CMMI 成果物一式)」の現在の範囲外の専門分野に対応するものです。

SW-CMM の終結は、SEI のウェブサイトでは記述されているように、予定通り進むでしょう。終結の方針は、現在も変わっておらず、カーネギーメロンによって支持されています。以下に、SW-CMM を終結させるための SEI の計画を記述します:

2001 年 12 月をもって、SEI は SW-CMM モデルもしくはトレーニングのアップデートを行いません。SEI は、「SW-CMM 入門」トレーニングの一般向けコースを 2003 年 12 月まで提供します。SEI は、「SW-CMM 入門」コースを実施するライセンスを SEI から受けている他の組織が、その日付の以降に、特定場所でのコース実施を要請する組織を選定する権利を取り上げることはせず、必要に応じて、新しいインストラクタを認定する場合があります。

アセスメントや審査については、CBA-IPI (CMM-Based Appraisal for Internal Process Improvement) および SCE<sup>SM</sup> (Software Capability Evaluation) に代わるものとして、SCAMPI<sup>SM</sup> (Standard CMMI Appraisal Method for Process

Improvement) V1.1 を SEI は公表しています。SEI は、今後は、CBA IPI や SCE 手法に対するいかなるアップデートも作成しません。CBA IPI の LA (Lead Appraiser : 主任評定者) および SCE の LE (Lead Evaluator : 主任審査者) は、2003 年の 12 月まで養成されるでしょう。しかしながら、認定 LA (Lead Assessor : リードアセッサ) および認定 LE (主任審査者) は、遅くとも 2005 年 12 月までに SCAMPI Lead Appraiser<sup>SM</sup> (SCAMPI 主任評定者) になる必要があるでしょう。その時点で、SCAMPI は、選択肢として唯一の評定手法となるでしょう。SCAMPI B および C の手法は、現在開発中で、まもなく SEI により先行評価されるでしょう。B および C の手法は、コミュニティの多様な評定ニーズを満足するために、SCAMPI 手法一式を拡張するものです。

SW-CMM に対して行われる SEI 認定アセスメントからのデータは、認定 CMMI 評定からのデータに加えて、引き続き受理され、SEI が公表するコミュニティ成熟度一覧表の一部として使われるでしょう。これらのデータは、SEI により、適切なコミュニティの一覧表に整理統合されるでしょう。

---

## これ以上の情報について

カーネギーメロン学長である Mark Kamlet による、SEI が全ての CMM 関連成果物の管理人であることを認める説明 ([英文](#))

SEI 所長兼 CEO である Stephen E. Cross による、SEI が CMMI に対して引き続きコミットすることを再断言する声明 ([英文](#)) ([和文](#))

さらに質問やコメントがある場合には、[cmmi-comments@sei.cmu.edu](mailto:cmmi-comments@sei.cmu.edu) にメールをお送り下さい。

---



## SEI は CMMI<sup>®</sup> に対するコミットメントを継続する

SEI は、成果物とサービスの開発と保守を行う組織におけるプロセスの品質を改善するために努力しています。SEI は、まず、ソフトウェア能力成熟度モデル ( Capability Maturity Model<sup>®</sup> (CMM<sup>®</sup>) for Software ) によって、この目標を達成しました。SEI は、その後、パートナーとの作業により、さらに他の CMM 群を開発しました。最近、他の、プロセス改善研究の関係者が、ソフトウェア開発のためのモデルにつながる活動について発表を行いました。コミュニティーにおける成熟度モデル関連の活動は多数ありますが、SEI の CMMI に対するコミットメントは現在も確固たるものです。

CMMI ( Capability Maturity Model Integration : CMM 統合 ) 成果物一式は世界中で採用されつつあり、北アメリカ、ヨーロッパ、インド、オーストラリア、アジア太平洋、および極東地域が含まれます。今や 5000 人を超える人が SEI もしくは 49 の [移行パートナー](#) による「[CMMI 入門](#)」コースを受講しています。CMMI の採用に動きつつある多くの組織のために、評価を実施する 122 人の SEI 認定の [SCAMPI Lead Appraisers<sup>SM</sup>](#) ( SCAMPI 主任評定者 ) が存在します。SEI は最近ドイツに新しい事務所を開設しましたが、「CMMI Product Suite ( CMMI 成果物一式 )」に対するヨーロッパでの関心が開設の理由の一つです。SEI は、CMMI Product Suite ( CMMI 成果物一式 ) に対して世界中の組織が示す反応に興奮しています。

今年初めに、SEI は「CMMI Product Suite ( CMMI 成果物一式 )」のバージョン 1.1 をリリースしましたが、それには、CMMI モデル群、トレーニング、および SCAMPI<sup>SM</sup> ( Standard CMMI Appraisal Method for Process Improvement : プロセス改善のための標準 CMMI 評定手法 ) が含まれています。8 月には、SEI は「CMMI-SW ( ソフトウェア CMMI )」モデルをリリースし、ソフトウェアのみの組織のために CMMI 解釈の手引きを開発する計画を発表しました。SEI は引き続き、「CMMI Product Suite ( CMMI 成果物一式 )」にコミットしたパートナー、顧客、およびコミュニティーを支援しており、また、「CMMI Product Suite ( CMMI 成果物一式 )」が国際的に広く採用されることを実現するための手助けをしています

SEI とその移行パートナーは現在、多数の組織と共に、国内外で、かつ政府、学会および民間の産業界において活動しています。さらに素晴らしいのは、「CMMI Product Suite ( CMMI 成果物一式 )」を完全に採用することの利点を

実感しつつある組織の数です。

コミュニティからのこの種の反応により、CMMI モデルや SCAMPI を含む「CMMI Product Suite (CMMI 成果物一式)」に対する SEI のコミットメントが実現されてきました。SEI は、引き続き「CMMI Product Suite (CMMI 成果物一式)」を、成果物とサービスの開発と保守のために利用可能なプロセス改善モデルとしては最善のものであると主張します。それは、SW-CMM (Capability Maturity Model for Software : ソフトウェア CMM)、SECM (Systems Engineering Capability Model)、および IPD-CMM (Integrated Product Development Capability Maturity Model) のベストプラクティスに基づいて拡張されたものです。

CMMI モデル群は、多くの重要な点において、以前のモデル群のベストプラクティスを改善したものです。CMMI のベストプラクティスは、組織が以下の点を実現することを可能にします。

- (1)成果物やサービスが顧客の期待に確実に応えるように、成果物のライフサイクルとエンジニアリング活動の範囲を拡張し、可視性を拡張する
- (2)成果物およびサービスが顧客の期待に確実に応えるように、成果物のライフサイクルとエンジニアリング活動の範囲を拡張し、可視性を拡張する
- (3)他の領域(例えば、測定、リスク管理、供給者管理)のベストプラクティスからの教訓を取り入れる
- (4)より頑健な、高成熟度のプラクティスを実装する
- (5)組織の成果物やサービスにとって重要な組織の機能部門をさらに取り上げる
- (6)関連する ISO 標準に対して、より完全に従う

SCAMPI は、いくつかのプロセス改善用の評価手法から最善の概念を取り入れたものです。SCAMPI A 手法は、多くの組織によってうまく利用されつつあります。発展段階にある SCAMPI B および C 手法は、まもなく SEI による先行評価が行われ、SCAMPI 手法一式を拡張するでしょう。また、調達分野においては、政府の供給者選定および契約監視のための手法の実装の手引きが、SCAMPI に基づいて作られています。

-- SEI 所長兼 CEO Stephen E. Cross

---

カーネギーメロン学長である Mark Kamlet による、SEI が全ての CMM 関連成果物の管理人であることを認める[説明（英文）](#)

SW-CMM®の終結に関する FAQ(Frequently Asked Questions) ([英文](#)) ([和文](#))

---

SEI における CMMI の活動や将来の計画に関する質問は、[cmmi-comments@sei.cmu.edu](mailto:cmmi-comments@sei.cmu.edu) 宛にメールを送って下さい。CMMI についての最新情報は、SEI のウェブサイト <http://www.sei.cmu.edu/cmmi> をご覧下さい。